

結果の概要

1 調査の概要

1 調査の目的

北海道教育委員会が義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各市町村教育委員会、学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数A・数学A〕

・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数B・数学B〕

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

4 調査の方式

平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査は、国が配布する問題冊子等を活用し、市町村教育委員会の協力を得て行う。

5 調査期日

調査実施日 平成23年9月27日（火）

調査実施予備日 平成23年9月28日（水）・29日（木）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

道内の178市町村（札幌市を除く。）が調査を実施した。

北海道（公立）

	対象学校数（校）	実施学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	965	965	29,378
中学校	557	557	29,855
合計	1,522	1,522	59,233

小学校には特別支援学校小学部、中学校には中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む。

実施学校数及び児童生徒数には、後日実施分を含む（集計対象の児童生徒数は、「教科に関する調査」のページに記載する。）

2 調査結果の解釈等に関する留意事項

本年度の調査については、国が従前の調査としての実施を見送ったことにより、全国の平均正答率が算出できないことから、過去の調査問題との関連において考察する必要がある。

本年度の調査については、調査実施日が、例年の4月から、9月となっており、調査時期が異なることに留意する必要がある。

平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、平均正答率の中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。また、平均正答数、平均正答率等の数値については、毎年、設問の難易度や対象となる児童生徒が違うことから、年度ごとの平均正答率を単純に比較することはできないことに留意する必要がある。

経年比較で用いている全道の集計は、平成19～21年度は悉皆調査の集計結果であり、平成22年度は札幌市を除く抽出調査と希望利用の合算の集計結果、平成23年度は国の調査を活用した道独自の調査の集計結果であり、札幌市が含まれていない。

3 平成23年度調査における全道の状況

教科に関する調査の結果

【平成23年度の出題傾向】

小学校国語の「知識」に関する問題では、これまでと同様に、漢字を正しく読んだり書いたりする問題のほか、新たに新聞記事を効果的に読み、必要な情報を得るなどの問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、これまでと同様に自分の考えをまとめたり、効果的に書いたりする記述の問題が出題された。

小学校算数の「知識」に関する問題では、これまでと同様に、整数、小数の計算をする問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、筋道を立てて考えることに加えて、事象を数学的に解釈する問題が多く出題された。

中学校国語の「知識」に関する問題では、漢字を読んだり書いたりする問題のほか、同音異義語を使い分けたり、漢字の楷書と行書との違いを書いたりするなどの問題が出題された。また、「活用」に関する問題では、これまでと同様に、理由を書く問題や提示された形式に合わせて書く問題が出題された。

中学校数学の「知識」に関する問題では、これまでと同様に、文字を用いた式の四則計算のほか、移行措置の内容である代表値や資料の散らばりなど「資料の活用」領域に関わる問題も出題された。また、「活用」に関する問題では、示された事柄を根拠をもって説明する問題が多く出題された。

各教科の平均正答率（北海道）

	小学校				中学校			
	小学校国語A	小学校国語B	小学校算数A	小学校算数B	中学校国語A	中学校国語B	中学校数学A	中学校数学B
平均正答率	73.1	36.2	78.0	42.2	78.0	62.4	54.7	47.4
平均正答数	11.7問 / 16問	3.6問 / 10問	14.8問 / 19問	5.5問 / 13問	25.0問 / 32問	5.6問 / 9問	19.7問 / 36問	7.1問 / 15問

各領域等の平均正答率（北海道）

小学校国語

	項目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
A	領域の平均正答率 設問数	93.1 1	59.7 3	72.5 3	71.6 13
B	領域の平均正答率 設問数	43.0 4	30.6 2	32.0 4	33.0 3

中学校国語

	項目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
A	領域の平均正答率 設問数	75.7 4	76.8 4	83.2 7	76.7 17
B	領域の平均正答率 設問数	0 0	47.0 4	62.4 9	34.8 1

小学校算数

	項目	数と計算	量と測定	図形	数量関係
A	領域の平均正答率 設問数	78.7 8	69.9 4	85.7 3	79.1 4
B	領域の平均正答率 設問数	44.1 4	46.1 2	34.1 3	47.6 7

中学校数学

	項目	数と式	図形	数量関係
A	領域の平均正答率 設問数	65.3 12	51.7 12	47.1 12
B	領域の平均正答率 設問数	62.1 3	45.9 6	41.5 6

【小学校調査】

【国語に見られる課題】

- 言葉の意味や使い方を理解し、相手や場などに応じて適切に言葉を使うこと
- 漢字を正しく理解し、文脈に沿って適切に活用すること
- 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明すること
- 複数の条件を満たして、分かりやすく表現すること

【算数に見られる課題】

- 四則計算のきまりや面積を求める公式など、基礎的・基本的な内容を理解すること
- 割合の意味を理解し、適切に表すこと
- きまりにしたがって、計算の仕方を考えたり、与えられた条件等に基づいて適切なものを判断したりすること
- 平面上にかかれた図形の情報を基に、図形の大きさなどを判断すること

【これまでの5年間の調査において、継続して見られる課題】

- ・学習した漢字を文脈に沿って適切に使って書くこと
- ・相手や目的、意図を明確にして話したり書いたりすること
- ・計算の順序についてのきまりを理解し、正しく計算すること
- ・割合や百分率の意味を理解し表すこと

【中学校調査】

【国語に見られる課題】

- 文脈の中における語句の意味、文章や話の内容の論理の展開をとらえて、発言したり理解したりすること
- 目的や意図、場、相手に応じて、適切に分かりやすく文章を書くこと
- 文章に書かれている内容を理解し、自分の考えを明らかにして書くこと
- 文章の表現の仕方や比喩的な表現を理解すること

【数学に見られる課題】

- 関数関係の意味を理解するとともに、数量の関係や法則を理解して数学的に表すこと
- 立体図形の体積を求めるなど、既習の内容を活用して公式をつくり出し、理解すること
- 必要な情報を選択し、根拠を明確にして問題を解決するための構想を立てて、数学的に表現すること
- 根拠を明確にして、筋道を立てて証明すること

【これまでの5年間の調査において、継続して見られる課題】

- ・学習した漢字を文脈に沿って適切に使って書くこと
- ・条件に応じて話したり書いたりすること
- ・文字を用いた式や四則計算の意味を理解し、確実に計算すること
- ・関数関係を理解し表すこと

解答用紙から分かる状況

わけや求め方を書く問題を途中であきらめる児童生徒が少なくなり、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒が増えた。

解答欄の枠をはみ出して解答を書くことは少なくなった。

読み取りが難しいような乱雑な文字や数字で記述することは少なくなった。

正しい文字や数字ではなく、自分なりの文字や数字で記述するなど、読み手に伝わりづらい語句等の内容が、継続的に見られる。

記述式の設問では、正答に近い解答をしているが、解答が途中で終わっていたり、設問で指定されている形式ではない記述をしたりする解答が見られ、確認などが不足している状況が見られる。

質問紙に関する調査の結果

【児童生徒質問紙】

国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で54.7%、中学校で60.0%であり、昨年度と比較し、小学校で若干低く、中学校で同様の傾向である。(小52、中52)

算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で60.5%、中学校で48.3%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で同様の傾向である。(小63、中63)

1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で41.9%、中学校で63.9%であり、昨年度と比較し、小学校で同様の傾向、中学校で高い。(小16、中16)

家で宿題をする児童生徒の割合は、小学校で89.3%、中学校で78.1%であり、昨年度と比較し、小学校で同様の傾向、中学校で若干低い。(小26、中26)

読書が好きな児童生徒の割合は、小学校で68.2%、中学校で68.8%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で同様の傾向である。(小55、中55)

1日当たり10分以上読書する児童生徒の割合は、小学校で53.1%、中学校で48.4%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で同様の傾向である。(小19、中19)

【学校質問紙】

国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校で、「よく行った」学校の割合は、小学校で63.4%、中学校で29.9%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。(小69、中67)

国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている学校の割合は、小学校で87.5%、中学校で76.5%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。(小71、中69)

算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校で、「よく行った」学校の割合は、小学校で64.9%、中学校で36.2%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。(小73、中71)

算数・数学の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行っている学校の割合は、小学校で96.3%、中学校で79.0%であり、昨年度と比較し、小学校で同様の傾向、中学校で若干低い。(小74、中72)

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校で97.7%、中学校で84.2%であり、昨年度と比較し、小学校で同様の傾向、中学校で高い。(小18、中18)

週に1回以上定期的に設けている学校の割合は、小学校で82.3%、中学校で67.5%であり、昨年度と比較し、小学校で若干高く、中学校で高い。

算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした学校の割合は、小学校で43.5%、中学校で41.0%であり、昨年度と比較し、小学校で若干高く、中学校で同様の傾向が見られる。(小44、中44)

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校で81.1%、中学校で92.9%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。(小20、中20)

週に1回以上実施している学校の割合は、小学校で30.3%、中学校で26.3%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。

長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校で63.1%、中学校で88.3%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。(小22、中22)

延べ5日以上実施している学校の割合は、小学校で21.9%、中学校で63.3%であり、昨年度と比較し、小学校及び中学校で高い。

()内は質問番号

クロス集計の結果

【児童生徒質問紙 × 平均正答率】

朝食を毎日食べている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

読書の好きな児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

家で学校の宿題や授業の予習や復習をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

国語の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の方が、国語Aの平均正答率が高い傾向が見られる。

国語における解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の方が、国語Aの平均正答率が高い傾向が見られる。

算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の方が、算数A・数学Aの平均正答率が高い傾向が見られる。

算数・数学における言葉や式を使ってわけや求め方を書いたり、説明したりする問題について、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の方が、算数A・数学Aの平均正答率が高い傾向が見られる。

【学校質問紙 × 平均正答率】

児童生徒が授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っっている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

小学校では、算数の指導として家庭学習の課題（宿題）を与えている学校の方が、算数Aの平均正答率が高い傾向が見られる。

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたっている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

地域別集計の結果

地域規模別（中核市、その他の市、町村、へき地）と全道の平均正答率の比較

- ・中核市の小学校国語Bは、全道の平均正答率と比べやや高く、その他は同様または、ほぼ同様（上位）
 - ・その他の市は、すべての教科で全道の平均正答率と同様
 - ・町村及びへき地は、すべての教科で全道の平均正答率と同様または、ほぼ同様（下位）
- 管内の平均正答率について、全道的な散らばりが大きい傾向が見られる。
市町村の平均正答率について、全道的な散らばりが大きい傾向が見られる。

調査結果を受けた重点的な取組

基礎・基本の定着

- ・ 児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるための、学習した内容を振り返り確認する場面の設定や、繰り返し指導などの充実
- ・ 学習指導要領に示されている内容が、児童生徒に身に付いたかを客観的に把握するための、学力・学習状況調査の過去問題やチャレンジテストの活用の推進
- ・ 放課後や長期休業日を利用した補充的な学習サポートが学習意欲の向上や、学習活動の充実に結びつくよう、実施の回数や方法、内容などの見直しと充実
- ・ 個に応じたきめ細かな指導を推進するための、少人数加配教員や退職教員等の効果的な活用や習熟の程度に応じた学習など、指導方法・指導体制の充実
- ・ 教科指導に卓越した教員が、複数の学校を巡回し、若手教員等の指導力の向上を図る巡回指導教員活用事業や、分かりやすい授業づくりなど教員の実践的な指導力の向上を図る学力向上トリプルUP！事業の充実

学習習慣の確立

- ・ 学校の授業と関連を図り、学習したことを定着させるための、家庭学習や宿題の工夫
- ・ 家庭学習を含め、望ましい生活習慣を児童生徒一人一人に身に付けさせるための、保護者を対象とした親学UP！事業による家庭への啓発の取組の充実

生活習慣・生活リズムの確立

- ・ 家庭において「早寝早起き朝ごはん」の取組や、生活リズムチェックシートの活用などを通じた生活習慣形成の基盤づくりの推進
- ・ 学習支援や生活習慣の確立を図るための、学生ボランティアによる学習サポートの充実

読書活動の充実

- ・ 学校における朝の一斉読書など読書の時間や機会の拡充
- ・ 保護者や地域住民などによる「読み聞かせ」や学校図書館の充実など、読書に興味をもたせる活動の充実
- ・ 朝読・家読など「子ども読書活動推進プログラム」の普及啓発

